



2019年3月29日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第167号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 第24回グローバル地震観測コースを修了
- グローバル地震観測コース閉講式研修生代表挨拶
- 渡米前のご挨拶

研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

第24回グローバル地震観測コースを修了

国際地震工学センター 管理室長 飯竹理広

平成31年1月16日に開始したグローバル地震観測コースは、3月8日(金)に閉講しました。JICA筑波で開催された閉講式では、外務省の田口首席事務官からも祝辞を頂き、エジプト、インド、イラン、パキスタン、ソロモン諸島、スリランカ、東ティモール、トンガ、ツバルから参加した12名すべての研修生がJICA筑波の高橋所長とBRIの緑川理事長から修了証

書を受け取りました。そしてエジプトのシャイマ氏が研修生代表として挨拶をしました。

研修期間は約2か月間でしたが、研修生はCTBTO体制および国際監視制度における地震学の役割についての知識を習得するとともに、核実験と地震を監視するためのグローバル地震観測技術や核実験と自然地震を識別するデータ分析技術等を学ぶことができたと思います。

研修生には、日本で学んだ知識を母国で沢山の方にも紹介して頂けると嬉しいです。

研修生のこれからのご活躍に期待しています。



外務省軍縮不拡散・
科学部軍備管理軍縮課
田口一穂 首席事務官



建築研究所 緑川光正 理事長



JICA 筑波センター 高橋政行 所長

論文募集

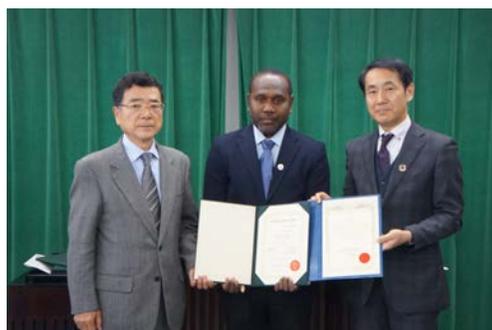
IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

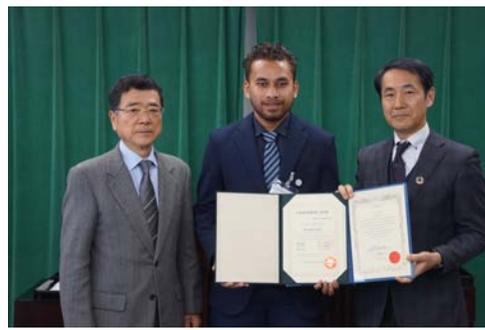
是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。



ソロモン諸島のカルロスさん



ツバルのマックスさん

グローバル地震観測コース閉講式研修生代表挨拶

シャイマ アリ マモーン カヒール、エジプト

こんにちは、
外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課 田口一穂 首席事務官、
建築研究所 緑川光正 理事長、
JICA 筑波センター 高橋政行 所長、
尊敬する先生方、ご列席の皆様、そして仲間の研修生の皆様、
私はシャイマです。こんにちは、エジプトから来ました。

どうぞよろしくお願いたします。
2018年度グローバル地震観測コースを修了した研修生代表として、ここで挨拶を述べることを光栄に思います。また、私たちの気持ちや感謝の気持ちをここにいらっしゃる皆さん伝える機会をいただき嬉しく思います。

私達はさまざまな国から来て、それぞれの言語を話し、それぞれの文化をもち、さまざまな宗教を信仰しています。しかし、私達はひとつになり、友達となり互いに交流し理解するための方法を見つけることができました。

この2ヶ月は私達にとって大変特別で、有意義であり、素晴らしいものでした。この研修は、建築研究所の国際地震工学センターの先生方、気象庁、日本気象協会、包括的核実験禁止条約機関準備委員会の専門家からなる優秀な講師陣と興味深い講義から成り立っていました。これらの有益な講義は私たちの知識を高め、核爆発と自然地震の識別技術、監視技術の見識を広めました。私たち全員がこのコースの主な目的を達成したと確信しています。

安全で清潔であること、人々の勤勉な態度、すべてのことが秩序立っており、みんなが規則を守る日本のライフスタイルにとっても感銘を受けました。

最近エジプトで、小さな子供達に日本の学校で学ぶような日本のマナーや振る舞いを教える取り組みが紹介されたことを誇らしく思います。

ついにお別れを言う時間がやってきました。



エジプトの
シャイマ アリ マモーン カヒールさん



連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは
下記をご覧下さい。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

私達は明日、家族や愛する人たちのもとに戻れることが楽しみでなりません。しかし正直なところ、この美しい国、親切な人々、各国からの友人たちと離れることは寂しいです。佐久間さんと稲留さんがいなくても私達は安全に時間通りに飛行機に乗れるでしょうか。

日本政府、外務省、JICA、国際地震工学センター、および建築研究所に心から感謝いたします。私達を温かく迎え入れ、日本で快適に過ごせるよう絶え間ない配慮をいただきました。この研修に参加できたこと、そしてここでの経験を家族や友人に共有できる機会を与えてくれたことを私達全員が感謝いたします。ここで新たな友情、地震学のための巨大なプラットフォーム、個々の違いを尊重する姿勢など、多くのことを得ました。

ただひとつ私が失ったものがあります。それは体重です。これは私にとっておまけの良いことになります。

最後に、私達はこの国とその友好的な人々が安全でそして永遠に幸せで、そして世界が平和で核のない状態を保つことを願います。

私たちの気持ちやここでの経験を述べるには、3分、5分では足りませんので、最後に一言で申し上げます。どうもありがとうございました。



渡米前のご挨拶

国際地震工学センター 主任研究員 林田拓己

建築研究所には、若手研究者が国外の大学や研究機関で長期にわたって研究することができる長期派遣研究員制度があります。このたび、私は長期派遣研究員に選ばれ、今年の4月1日から来年の1月31日までの10ヶ月間、アメリカ合衆国にあるカリフォルニア大学バークレー校に滞在することになりました。同大学には多くの地震研究者が在籍しており、基礎研究から応用研究に至るまで、最先端の幅広い研究が行われています。日本も米国西海岸も地震が多いという共通の特徴がある一方で、研究へのアプローチや観測記録の活用方法には大きな違いもあるため、滞在中には米国の最先端の技術を学びながら、自分自身の研究テーマについて多くの研究者と議論を深めたいと考えています。

異国の地で研究が出来ることが待ち遠しい一方、文化の違いなど様々な不安も

あり、通年研修に参加する研修生も訪日前に同じような感情を抱いているのではないかと想像しています。

滞在期間中は建研の業務が出来ないため、センターの職員および研修生の皆様には何かとご迷惑をお掛けしますが、帰国後には、滞在を通して得た知見やアイデアを研修に活かせるよう励みたいと考えています。近くにおいでの際は、いつでも気軽にお立ち寄りください。



林田さん(左)とグローバル地震観測コースの研修生